

令和4年5月

大谷口地区区民と区長との懇談会
報告書

板橋区政策経営部広聴広報課

目次

	ページ
I 概要	1
II 区長冒頭挨拶	2
III 質問要旨及び区長回答	
1番 高齢者の外出機会の支援について	3
2番 水道管・ガス管取替え後の道路舗装工事について	3
3番 小竹向原駅周辺の再開発について	4
4番 SDGsについて	5
5番 デジタル活用推進事業について	7
6番 子どもたちのIT教育に関する地域の協力について	7
別紙1 SDGs資料	9
IV 懇談（意見交換）	
板橋消防団第5分団・第7分団の紹介と活動協力をお願い	13
別紙2 説明資料	16
V 区からの情報提供	18
VI 区長結び挨拶	20
VII 配布資料	
大谷口地区エリアマップ	21

I 概要

1 開催日時

令和4年5月24日（火） 14:00~15:30

2 開催場所

大谷口地域センター 洋室 A

3 出席者

住民側 29名

町会・自治会及び関係団体	27名	
	発言者	7名
一般公募	2名	
	発言者	0名
	傍聴者	2名

区側 11名

区長、政策経営部長、危機管理部長、区民文化部長、健康生きがい部長、都市整備部長、土木部長、教育委員会事務局次長、地域教育力担当部長、大谷口地域センター所長、広聴広報課長（司会）

II 区長冒頭挨拶

大谷口地区の皆様には、日頃より地域のためにご尽力いただき、感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に、多大なるご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。板橋区におきましても、やむを得ずさまざまな活動が制限されることとなり、皆様にはご不便、ご迷惑をおかけしております。

残念ながら、今年度も「いたばし花火大会」は中止することとなりましたが、区政事務事業説明会においてオンライン配信により実施いたしましたように、ポストコロナを見据えた新たな事業実施方法の構築に取り組んでまいります。

さて、大谷口地域におかれましては、住民相互の親睦と交流を深め、地域の活性化と安心・安全なまちづくりに、多大なる貢献をいただいておりますことに、敬意を表します。

毎年支部をあげて取り組まれておられます「緑のカーテンづくり」では、過去に「緑のカーテンコンテスト 町ぐるみ部門」のグランプリを2年連続で受賞されるなど、環境保全に向けて積極的に取り組んでいただき、誠にありがとうございます。

区では、令和4年1月に、人と緑を未来へつなぐスマートシティを推進し、持続可能な社会を構築するため、2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンいたばし2050」を表明しております。引き続き、地域における環境保全にご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

さて、板橋区は、令和4年度が区制施行90周年を迎えます。先人たちが築いてきた伝統・文化など、大切な財産を継承しつつ、コロナ禍を乗り越え、誰一人取り残さず、成長し続けるまちの実現に向け、新しい未来へのメッセージを発信してまいります。

90周年の節目を区民の皆さんとともに祝いするため、年間を通して様々な記念事業を実施いたします。是非、関心がある事業にご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

また、板橋区では、「板橋区基本計画2025」における未来創造戦略で指向する、魅力創造発信都市と、安心安全環境都市の実現をめざし、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症へ適切に対応していくとともに、2年目を迎える「いたばしNo.1実現プラン2025」の重点戦略の柱である「SDGs戦略」「デジタルトランスフォーメーション(DX)戦略」「ブランド戦略」の3つを基本とし、未来を見据えた計画の着実な実現を図ってまいります。

後ほど詳しく説明させていただきますが、先日、5月20日には、板橋区が2022年度SDGs未来都市に選定されました。これを機に、持続可能なまちづくりをさらに推進してまいります。

最後となりますが、前回の大谷口地区における懇談会の開催は、平成30年5月18日であり、早いもので4年が経過しています。

本日は、地域の課題はもとより、区政全般にわたる課題や要望などを、直接、お伺いできる貴重な機会ですので、これを活かした地域の課題解決、さらには、区の発展につなげてまいりたいと考えています。

感染症の拡大防止を踏まえ、以前より短い時間での運営とはなりますが、有意義な懇談会にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

1番 高齢者の外出機会の支援について

大谷口二丁目町会ご質問（要旨）

高齢者に対する通院・買物等、外出のために、送迎車を運行することは、可能か。

区長回答

高齢の方々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、介護保険制度では、認定を受けた方への「訪問介護」や、「通所介護」等の介護サービスを展開しております。あわせて、通院や介護サービスの前後における送迎、買い物など訪問介護の「生活援助」といったサービスも提供されております。ご相談いただければ、介護保険外となりますが、送迎等の支援も可能です。介護タクシーを含め各種サービスを活用いただけるよう、今後、積極的な周知を図ってまいります。

なお、生活交通の充実に向けた方策の検討にあたりましては、大谷口二丁目付近の公共交通へのアクセス性の向上が、課題として存在しております。狭隘な道路幅員による、歩行者や自転車の安全な動線確保に対する困難性など、交通ネットワーク形成に関する地域課題の解決について、新たな交通システムの動向にも注視しながら、大谷口地区のまちづくりの中で、引き続き取り組んでまいります。

2番 水道管・ガス管取替え後の道路舗装工事について

大谷口四部町会質問（要旨）

道路面にカッター切れ込み跡、凸凹、ツギハギになっている大谷口上町の道路舗装工事の施工時期はいつになるか。

※該当箇所大谷口上町 74、75、77、79、80、81、86、87、88 番地に面している道路

区長回答

区道などの公道では、埋設されているガス・水道・下水道の管、電信のケーブルなどのメンテナンスのため工事が、頻繁に行われることを防ぐため、ライフライン事業者間の調整を行っております。

ご質問の区道も、この制度を適用しており、関連事業者が順番に工事を実施しておりますが、ご質問をいただいた時点では、ガス・水道・下水道の管の入れ替え工事は完了し、最終的な工事を待っている状態でありましたので、仮復旧と呼ばれる簡易舗装になっていたものでございます。

今後、ガス事業者が道路としての舗装を全面的に復旧し、6月からは、従来どおり利用いただける予定となっております。

なお、大谷口上町 74 番地先の約 15 メートルの区間については、建築工事中の敷地が後退して道路を拡幅することが決まっており、この工事のため、6月末の開通となる予定です。

ご不便をおかけいたしますが、今しばらくの間、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

（以下、土木部長より補足説明）

道路の下にはガス・水道・下水道管などが埋められており、これらは定期的にメンテナンスが必要となりますが、ものによってサイクルが異なります。各工事をそれぞれのメンテナンスの時期で実施しておりますと、頻繁に工事を実施することになってしまいます。区では、これを防ぐために各事業者間の調整を行っております。

各管は道路と並行方向に張り巡らされているものと、各家庭につなぐため、直角方向に埋設されている管があり、それぞれ定期的に補修が必要となっております。

そのために、縦と横の管を何度も工事をすることに

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

なります。工事のたびにきちんとした復旧をしますと非常に高額な費用が発生してしまい、それがライフラインの利用料に直結してまいります。そのため、短い期間の工事については、簡単な舗装をして、次の工事に引き継いでいくという方法をとっております。そして、区や最後に担当する事業者が、最後に舗装のやり替えを行うというのが代表的な例となっております。

今回の場合では、当該道路で工事をしない部分が多かったため、傷んだ部分のみを補修する方法をとった経緯がございます。

最後に、拡幅についてでございますが、建築基準法では、家を建てる時に4m以上の道路に接していなければならないという決まりがございます。この決まりを厳密に執行しますと、社会生活が成り立たなくなってしまいますので、「今度建て替えをするときに道路の中心から2mを確保して家を建てるようにしてください」という決まりになっております。また、この決まりを守りますと、建て替えごとに土地が減ってしまうこととなりますので、建築基準法が施行された昭和25年時点で、道路の中心線を設定し、その中心線から2m確保できるように一度整備すればよいということになっております。

今回の大谷口上町74番地先の約15メートルの区間では、ただいま説明いたしましたようなお話がございました。道路の中心線から2m確保する工事とライフラインの補修工事を別々に行いますと、汚くなってしまいますので、「一緒に工事をしましょう」ということで、区が調整を行い、建て替えの家の所有者が工事の費用を負担して、ライフライン工事を行った東京ガスが道路の補修を最終的に行ったというものでございます。

3番 小竹向原駅周辺の再開発について

向原町会ご質問（要旨）

以前から向原ホールにエレベーターをつけてほしいと要望していたが、施設の老朽化とエレベーターを設置する際の建物の強度の問題もあり、実現には至らなかった。今後ますます老朽化していく中で、いずれ「このままでよいのか」という問題が生じてくると思われる。

大谷口地域を取り巻く環境は、どんどん変わってきている。特に小竹向原は、2023年3月(予定)、相鉄横浜線・東急新横浜線更には羽田空港線も計画され、10～15年後には、区内最大級のターミナル駅となる予定である。また、住宅着工も増加し、世帯数も4,000世帯も間近に迫ってきている。

このような環境の変化を踏まえて、10年20年のスケールで老朽化してきている向原小学校と向原ホール等施設を複合化した施設を駅前につくって、新しい生活環境を整備することを強く要望する。

区長回答

小竹向原駅は、東京メトロ有楽町・副都心線で、都心だけでなく池袋、新宿、渋谷、横浜などの大きな都市へ一本で結ばれ、その交通利便性の高さから、近年、注目を集めております。人口も増え、人気のあるエリアだと感じております。

地下鉄開業時に駅前整備等が行われなかったことから、交通結節機能や商業集積等に課題があると認識しております。

駅周辺は、向原第二住宅団地の建替えなどにより、今後も人口増加が予想されるほか、放射36号線の工事も着実に進みつつあり、地域の交通事情も大きな変化が生じると考えております。

駅のポテンシャルや地域の皆様のご意見等も踏まえ、駅にふさわしいインフラ整備や街の魅力の創出などを長期的視点で検討していきたいと考えております。

また、向原小学校については、築61年と老朽化の課題を抱え、今後いたばし魅力ある学校づくりプランに基づき協議・検討を開始する予定であり、その方向性も踏まえながら、向原ホールなど周辺施設の更新についてトータルに検討していく必要があると考えております。

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

是非、こういった意見交換の機会や地域の様々な事情を調査、分析を行いながら、地域の課題解決を速やかにするものは速やかに行い、長期的につくっていくものについては、検討、研究をしながら、将来のビジョンを作っていく作業を進めていきたいと考えております。

皆様にはこれからも地域の将来について考える機運をつくっていただきますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

4番 SDGsについて

コーシャハイム向原自治会ご質問（要旨）

コーシャハイム向原自治会では、SDGsについて力を入れて取り組んでいる。

現在の板橋区のSDGsの取組状況について、教えていただきたい。

区長回答

区では、基本計画を推進するアクションプログラムであります「いたばしNo.1 実現プラン 2025」において、SDGsを重点戦略の一つとして位置付け、積極的に推進していく方向性を示しております。

令和2年度に整備した「板橋こども動物園」は、SDGsを体現した施設として、草屋根や壁面緑化による環境負荷の軽減や、動物とのふれあい・生物多様性を学ぶ教育の機会を創出するなど、区民の皆様に好評をいただいております。

また、今年1月にはゼロカーボンシティを表明し、いたばし環境アクションポイント事業の拡充や本庁舎内におけるウォーターサーバーの設置など、ゼロカーボンシティ実現を具体化する取組を進めております。

さらに、4月1日には「誰一人取り残さない」子育ての総合拠点として「板橋区子ども家庭総合支援センター」が開設し、7月1日の児童相談所設置市への移行及び児童相談業務開始に向けて準備を進めております。

5月20日付で、区は2022年度SDGs未来都市として選定されました。これを受け、区では未来都市選定自治体として持続可能なまちづくりを推進してまいります。

SDGs未来都市の選定を契機に、より一層の普及啓発に努めながら、地域のみなさまとともにSDGsの取組を拡げてまいります。

（以下、政策経営部長より説明）

資料1をご覧ください。

板橋区は、先日「絵本のまちを軸としたSDGs未来都市“いたばし”」という内容で内閣府よりSDGs未来都市として選定いただきました。「絵本」はどこでも身近に、誰もがわかりやすく理解できるものでございます。これまで板橋がはぐくんできた絵本文化を大切に生かす「絵本のまち“板橋”」は、

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

「誰一人取り残さない」SDGsの理念に通じるユニバーサルで誰でも参加できる持続可能なまちづくりと考えております。

『絵本のまち』これまでの特徴的な取組についてでございますが、1981年以來、毎年、区立美術館で「ポローニャ国際絵本原画展」を開催し、絵本をアートとして採り上げる美術館として、先駆的な役割を果たしてきました。また、区では、ポローニャから寄贈された絵本を中心に、世界約100か国、3万冊、70言語の絵本を所蔵する「いたばしポローニャ絵本館」において、世界の絵本を展示する「ポローニャ・ブックフェア in いたばし」などのイベントを開催しています。また、区内に印刷製本業が集積しており、企業の協力を得て絵本づくりのワークショップなども開催しております。

こうした中、いたばしポローニャ絵本館を併設し、緑と文化を象徴する図書館として生まれ変わったのが新しい中央図書館となります。板橋区平和公園の豊かな緑に囲まれた環境の中で「絵本のまち」を発信する拠点として展開していきます。

この新しい中央図書館を中心に、周辺地域や商店街とも連携しながら、にぎわいと交流による「経済」効果、生涯学習と読み聞かせによるシニア活動支援など「社会」効果、公園と一体化した空間を活用した「環境」効果、これらSDGsの三つの側面から創出していきたいと考えております。

「SDGs未来都市」とは、国がSDGsの達成に向けて優れた取組を提案する自治体を募集・選定する制度となります。

区では、1993（平成5）年、人と環境が共生するまちとして「エコポリス板橋」環境都市宣言を行うなどこれまでの特徴的な取組が評価され、2018（平成30）年12月には、ポーランド・カトヴィツェで開催された国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）に参加依頼を受け、これまでの取組と板橋区の魅力を世界へアピールいたしました。また、2021年に実施された日経グローバルによるSDGs先進度調査では、都内2位（全国9位）という高い評価を得ております。

最後になりますが、未来都市に選ばれたことをきっかけとして、『絵本がつなぐ「ものづくり」と「文化」のまち』として、子育てのしやすさが定住を生

む教育環境都市の実現をめざし、若い世代の定住化と健康長寿のまちづくり、未来へつなぐまちづくりをさらに推進していきたいと考えております。

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

5番 デジタル活用推進事業について

小茂根二丁目町会質問（要旨）

総務省が昨年からはじめた事業で、近年はデジタルライフがかつてなく多くなりつつある。高齢者のスマホ普及率が80%以上と言われているが、今回のコロナワクチン接種の申込みでも使いこなすことが難しく手助けが必要だった。区としても何らかの対策を考えているか。

地域で公共の申込みなど必要最小限なことができるようレクチャーする場を設けてほしい。かつて地域センターでスマホの講習会を企画していたようだが、現在は中止になっている。

区長回答

区におきましては、オンラインを活用した行政サービスの拡大を推進している中、高齢者をはじめとした誰もが、デジタル機器を活用し、各種サービスを楽しむことができる地域社会を実現する必要があると認識しています。

区では今年度、地域センターを会場に高齢者向けのスマホ講習会を9日程度実施することとしており、大谷口地域センターでは12月8日に開催する予定であります。詳しくは、後日、チラシ等により周知しますので、ご活用いただきたく存じます。

このスマホ講習会では、操作に関する講義だけでなく、実際に機械を利用した操作体験、施設申込等の各種手続きのレクチャーなども実施し、高齢者の方がスマートフォンを使いこなすきっかけとなる取組としてまいります。

6番 子どもたちのIT教育に関する地域の協力について

大谷口小学校PTAご質問（要旨）

行政等が旗振り役となって、子どもたちにプログラミングなどのITを教えるもいいと思っている大人（親）を学校に呼び、先生と協力してプログラミングを教えるような授業とかができないか考える。実際のITの現場で働いている地域の人材を活用し、より良いIT教育を行うとともに、先生方の負担も減らすことができるのではないかと考えている。

教える側の人材のレベルをどう担保するかなどの諸課題はあると思うが、地域の人材を活用して、先生方の負担も軽減しつつより良い教育を子どもたちに提供できる仕組みができるといいなと思うがいかがか。

区長回答

プログラミング教育は、プログラミング的思考を育むことを主な目的に、各学校が創意工夫しながら、学習指導要領に例示されている算数の図形や理科の電気などの単元の中で実施しております。

その際、必要に応じて、企業や団体、地域等の専門家の協力を得ながら実施しているケースもございます。専門的な能力やスキルを持った地域の人材を活用することは、「地域とともにある学校」の視点からも大変有意義であると考えております。

以前、大谷口小学校や桜川小学校では、PTA有志の方のご協力により親子プログラミング教室を開催したと聞いております。

成増ヶ丘小学校では、保護者の協力もいただきながら、国際的なロボット競技会（ファーストレグリーグ）に参加し、国内予選を勝ち抜き、今年6月の世界大会へ出場することとなっております。

また、教育科学館では、センサーで障害物に反応するロボットを用いて火星探査のシチュエーションでロボットを動かすプログラミング教室などを本年度の事業として計画しているところでございます。

板橋区では、各学校に「学校支援地域本部」を設置し、地域コーディネーターが学校の求める支援と地域の人材のマッチングを行っており、こういった仕組みを活用し、IT能力に長けた地域の方々との

Ⅲ 質問要旨及び区長回答

連携を進めていきたいと考えております。

プログラミング教育は子どもたちの可能性を広げ、社会の発展や課題の解決に大きく寄与するものと認識しておりますので、地域のみなさまのご協力をお願いいたします。

(以下、地域教育力担当部長より説明)

成増ヶ丘小学校では、プログラミング教育に関して熱心に様々な取組を行っております。その中で、ファースト・レゴ・リーグという活動に参加しており、今回はそのチームの活動の様子をご紹介します。

ファースト・レゴ・リーグとは、世界最大規模のロボット競技会で、9～16歳が対象、100か国以上、約4万チームが参加しております。

次に競技内容についてですが、メインとしてプログラミングによるロボットゲームがございます。そのほか3つのプレゼンテーションが行われることとなります。1つ目がチーム活動を表すコアバリュー、2つ目がその年のテーマに合わせて研究したことを発表するイノベーション・プロジェクト、3つ目がロボットやプログラミングについて説明するロボット・デザインでございます。ちなみに、コアバリューは3年前、イノベーション・プロジェクトは去年と今年の大会で、それぞれ成増ヶ丘小学校が部門賞で日本一に輝いております。

イノベーション・プロジェクトでは、「物流・輸送」というテーマについて各自が調べた内容をもとにパソコンで共有し、プロジェクトの話し合いを行っております。さらに解決策を出す過程ではホワイトボードに付箋を貼りつけながら、解決策を絞っていきました。また、解決策を導き出す過程で企業や有識者の方にフィードバックを受けながら、改善を繰り返し、解決策を導いていきました。

卒業生チームは、段ボールの積み方の提案として、人為ミスによる荷物の破損を防ぐ「はこしるべ」というマーク付き段ボール箱を提案いたしました。これは、積み荷の角にマークをつけ、人間の心理として、マークをそろえたいくなるという心理を応用して、積み荷をきれいに積み上げ、荷崩れを防ぐというものになります。小学生チームでは、宅配ロッカーと連携して、中に入っている荷物を運びロッカーの稼

働率を上げて再配達を減らすロボット「はこ兵衛」を提案いたしました。

次にメインのロボットゲームについてですが、ロボット・リーダーを中心に戦略を考えながら、ミッションをクリアするためのプログラムやアタッチメントを作成していきます。実際に小学生が作成したプログラミングは、普通の大人では理解しがたいような複雑なプログラミングになっているところがございます。

ロボット競技は、世界共通のボードに17個のミッションがあり、それをクリアして得点を争う競技となっております。

子どもたちは、自分に与えられた役割を全うする中で、様々なトライ、修正し、本番に挑むといった過程を経験し、成長する、非常に良い機会を得ていると感じております。

なお、教育科学館においても、レベルに合わせたプログラミング教室を行っております。こちらは、個人で実施するプログラミングとなっております。



絵本のまち板橋

絵本のまちを軸としたSDGs未来都市“いたばし” 板橋区長 坂本 健

どこでも身近に、誰もがわかりやすく理解できる「絵本」。
これまではぐくんできた絵本文化を大切に生かす「絵本のまち“板橋”」は、
「誰一人取り残さない」SDGsの理念に通じる
ユニバーサルで誰でも参加できる持続可能なまちづくりです。

「絵本のまち」これまでの特徴的な取組

1981年以来、毎年、区立美術館で「ボローニャ国際絵本原画展」を開催し、絵本をアートとして採り上げる美術館として、先駆的な役割を果たしてきました。「ボローニャ国際絵本原画展」は世界の新人イラストレーターの登竜門としての役割も果たしています。

ボローニャから寄贈された絵本を中心に、世界約100か国、3万冊、70言語の絵本を所蔵する「いたばしボローニャ絵本館」では、世界の絵本を展示する「ボローニャ・ブックフェア in いたばし」や「いたばし国際絵本翻訳大賞」などのイベントを開催しています。「いたばし国際絵本翻訳大賞」は1994年から、外国の文化に触れ国際理解をはぐくむために英語とイタリア語の絵本の翻訳作品を募集するコンテストを実施しており、中学生部門も設けています。これまでに多くの受賞作品が絵本として出版されています。

区内に印刷製本業が集積しており、企業の協力を得て絵本づくりのワークショップなども開催しています。区民が絵本に親しむだけでなく、創作者活動の支援充実にも取り組んでいます。区民と創作者の視点に立った事業実施と相乗効果によって、絵本のまち“板橋”としてのブランド力向上を図っています。



区立美術館ボローニャ国際絵本原画展



いたばし国際絵本翻訳大賞受賞式

いたばしポローニャ絵本館を併設し、
緑と文化を象徴する図書館として生まれ変わった新しい中央図書館。
板橋区平和公園の豊かな緑に囲まれた環境の中で
「絵本のまち」を発信する拠点として展開していきます。

「絵本のまち」 これからの発信拠点

2021年3月、新しい中央図書館が緑豊かな板橋区平和公園内で生まれ変わりました。「いたばしポローニャ絵本館」を併設し、友好都市交流協定を締結しているイタリア・ポローニャ市との友好の証として「ポローニャギャラリー」を中央に設置しています。「ポローニャギャラリー」は、ポローニャ市と共同で開催したデザインコンテストの最優秀賞作品をもとに設計しており、ユネスコ世界遺産に登録されたポローニャ市街の特徴である「ポルティコ（柱廊）」を表現しています。

新しい中央図書館は、カフェやテラス、公園とつながる広場や外周園路などによって公園と一体化した快適な空間を提供します。ホールなども活用しながら、読み聞かせ事業や絵本展示など「絵本のまち“板橋”」の発信拠点として展開していきます。

「絵本のまち」の発信拠点である新しい中央図書館を中心に、周辺地域や商店街とも連携しながら、にぎわいと交流による「経済」効果、生涯学習と読み聞かせによるシニア活動支援など「社会」効果、公園と一体化した空間を活用した「環境」効果を創出していきます。



豊かな緑に囲まれた環境で生まれ変わった中央図書館



ポローニャ市とのコンテストで採用したデザイン（ユネスコ世界遺産に登録されたポルティコを表現）をもとに設計したポローニャギャラリー

国からSDGs未来都市に選ばれた板橋区。
絵本がつなぐ「ものづくり」と「文化」のまちとして、
子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市の実現をめざし、
SDGsをさらに推進していきます。

SDGs未来都市とは

国がSDGsの達成に向けて優れた取組を提案する自治体を募集・選定する制度です。

これまでの特徴的な取組

1993（平成5）年、人と環境が共生するまちとして「エコポリス板橋」環境都市宣言を行い、エコポリスセンターや板橋清掃工場の余熱を利用した熱帯環境植物館の設置、板橋から全国に広まった緑のカーテン事業、友好都市である日光市の産材を活用した施設整備などに取り組み、2022（令和4）年1月には、2050年にCO₂排出量実質ゼロをめざすゼロカーボンシティ表明「ゼロカーボンいたばし2050」を行いました。

これまでの取組にかかる評価

2018（平成30）年12月、ポーランド・カトヴィツェで開催された国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）に参加依頼を受け、これまでの取組と板橋区の魅力を世界へアピールしました。また、2021年に実施された日経グローバルによるSDGs先進度調査では、都内2位（全国9位）という高い評価を得ています。

これからの取組

区の総合実施計画である「いたばしNo.1実現プラン2025」においてSDGsを重点戦略の柱の一つとして展開しています。未来都市に選ばれたことをきっかけとして、『絵本がつなぐ「ものづくり」と「文化」のまち』として、子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市の実現をめざし、若い世代の定住化と健康長寿のまちづくり、未来へつなぐまちづくりをさらに推進していきます。



SDGs のめざす未来志向の持続可能な高島平地域のまちづくり

IV 懇談（意見交換）

板橋消防団第5分団・第7分団の紹介と活動協力のお願い

板橋消防団第7分団より消防団について紹介

資料2を用いて説明させていただきます。

はじめに、消防団の組織についてご説明させていただきます。区内には板橋消防団と志村消防団があり、板橋消防団には8つの消防団がございます。そして、大谷口地域には第5分団・第7分団が存在しております。主要な装備として、両分団には可搬ポンプ積載車1台、可搬ポンプ2台が配備されております。これらの装備は、火災の際、5名の人員が必要と考えられます。そのような中、第5分団の団員数は28名（定員数42名）、第7分団の団員数26名（定員数43名）と深刻な定員割れとなっております。

続きまして、主な活動についてご紹介いたします。災害出動（火災、水災、台風、救助活動等）では、分団が集まり、警戒にあたっております。次に警戒出動ですが、区民まつり、さくらまつり、歳末警戒があった場合には、協力を行っているところでございます。地域防災活動といたしましては、町会・自治会の防災訓練、学校・事業所等への応急救護講習のお手伝いをしております。

続きまして、震災発生時の活動と町会・自治会の皆様へのお願いについてでございます。消防団は、東京都内で震度5強が発生した場合は、全団員が自主的に各分団本部へ集合します。それ以下の震度であっても、本団からの参集命令があった場合は参集し、被害状況の確認、救助活動を行うこととなっております。また、参集後の活動については、全て本団の指示を受けての活動となります。本団と各分団間は、デジタル無線を使って連絡を取り合います。

震災発生直後は、救助を求める地域の方々が多く発生することが予想され、電話が不通となればなおさら、消防署・出張所・消防団分団本部へ直接助けを求める人が集まり、混乱することが予想されます。このような中、被害を最小限にすべく活動を行う上で、まず重要な事は、正確な情報を得る事です。混乱した状況の中、正確な情報を得るためには、町会・自治会の皆様の情報提供のご協力が大変重要となります。地域の皆様には、情報はあがるが連絡手段がないようなときは、分団本部に直接お越しいただき、

情報をお伝えいただくことにご協力いただきたいと思いますところでございます。

また、過去の震災時の事例から、消防団員だけでは人手不足となり、救助活動への人的協力を町会・自治会の皆様をお願いすることになろうかと思われれますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

次に、運営の課題とお願いについてでございますが、先ほども申し上げましたとおり、在籍団員数が大変少なくなってきました。この現状に対し、消防団としては、入団促進委員会を発足し、団員の補充・勧誘方法を検討しております。

消防団員の減少により勧誘活動を活性化したいところですが、感染症が蔓延している環境下ではなかなか難しく感じております。

そこで、各区立小学校においての震災引き渡し訓練時に、少しお時間をいただいて消防団の紹介（放水活動の実演等の実施も検討）とチラシの配布を児童と保護者の前で行わせていただくことが勧誘活動の一環になると考えております。

可能であるならば、区から各校へ、消防団が消防団の告知を希望している旨を通知していただければ、各校にお願いがしやすいと思っております。

最後に、消防団員として、また、住民の一人として、地域の安心と安全の為、日々訓練を行い、今まで以上に頼られる消防団をめざして努力してまいりますので、皆様のより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

IV 懇談（意見交換）

板橋消防団第7分団ご質問①（要旨）

消防団の実情について

現在、消防団員の減少により、勧誘活動を活性化したいところであるが、感染症が蔓延している環境下では、なかなか難しいのが実状である。

危機管理部長回答

板橋消防団第5分団及び第7分団の皆様には、コロナ禍にもかかわらず、日頃より区民の安心・安全の実現にご尽力いただき、災害の最前線で昼夜を問わず、ご活躍いただいていることに、深く感謝を申し上げます。

地域防災力の要である消防団員の確保の重要性については、危機管理部としても認識しているところでございます。

危機管理部では、コロナ禍において、今までのような普及啓発活動が困難な中でも行える防災の取組を「板橋防災プラスプロジェクト」として展開しております。一例として、区内のショッピングセンターで実施した「おうちで備えるキャンペーン」会場において、消防団員の募集広報を実施いたしました。また、区ホームページに団員募集広報を掲載するとともに、広報いたばしへの掲載のほか、管内消防署と連携し、地域特性に応じた募集活動を実施しております。

一方で、現在、消防団の募集広報については、主に紙媒体を中心に行っていますが、消防団の活動をより深く理解していただくために、映像を活用した広報にも力を入れていきたいと考えております。

まずは、東京消防庁で作成している動画を活用し、区役所本庁舎のデジタルサイネージで放映する準備を進めております。

最後に、小・中学校との関わりでは、消防団は、学校での応急救護講習で講師を務めるなど、防災力向上のために重要な活動を行っていただいております。学校防災連絡会の中で、消防団の活動や団員募集の広報をするなどにより、地域や学校の理解がさらに深まるように努めてまいります。

消防団のすそ野を広げていくために、消防団の活動を知っていただくことや団員を増やすための広報活動を、関係各機関と連携し、危機管理部として最大限行ってまいります。

板橋消防団第7分団ご質問②（要旨）

小学校への協力要請について

各区立小学校においての震災引き渡し訓練時に少しお時間をいただき、消防団の紹介とチラシの配布を児童と保護者の前で行わせていただきたい。

可能であるならば、板橋区から各校へ、消防団が消防団の告知を希望・協力をお願いしている旨、通知していただければと思う。

また、各校の引き渡し訓練の実施予定日を消防団事務局へ連絡いただけると、予定が組みやすく、事前に学校との打ち合わせも可能かと思う。

ご検討いただきたい。

教育委員会事務局次長回答

板橋消防団第5分団及び第7分団の皆様には、日頃より区民の安心・安全のためにご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

ご要望のあった、各区立小学校での震災引き渡し訓練時に時間をとって、消防団の紹介とチラシの配布を児童と保護者の前でを行う件について回答いたします。

この度の板橋消防団第7分団の皆様からのご質問を受けて、5月10日に、全小・中学校の校長が参加する「全体校長会」において“消防団員募集”の協力依頼と、“募集のチラシ”の配布を行いました。

一方、引き渡し訓練時における周知についてですが、保護者への引き渡しチェックに時間がかかることや、9月1日頃に実施する学校が多いため熱中症の危険性が高いなどの理由から、対応が難しい状況でございます。

“消防団員募集”の協力依頼と、“募集のチラシ”の配布については、先ほどの「全体校長会」での対応に加え、電子メールで再度、全小・中学校に伝えておきますので、保護者が集まる機会等をとらえて、各学校の実情に応じて実施できるよう、各学校に直接ご相談いただければと存じます。

IV 懇談（意見交換）

区長総括

大谷口地域の皆様においては、日頃より板橋区政へのご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

ご存じのとおり、大谷口地域は、西光寺や氷川神社などの名刹をはじめ、地区のシンボルである水道タンクの保全など、先人たちが築いてきた歴史や伝統・文化を大切に継承するための取組を、街を挙げて積極的に行うなど、地域の結束が強い地域であります。

また、地域内には石神井川が流れ、閑静で細やかな街並みが広がる一方、道路が狭隘という特徴があり、地域の歴史をたどれば、その石神井川の氾濫による浸水被害や、特徴的な町並みが、火災の延焼被害を拡大させることもございました。

そうした災害の発生時、復興期には、地域の方々の消火活動、救助活動、復興活動が被害を最小限に留め、早期の復興に繋がってきたものと認識しております。

先ほど発表いただいた板橋消防団第5分団及び第7分団の皆様をはじめ、住民防災組織、区民消防隊、町会、自治会、大谷口地域のすべての皆様が、平常時から地域の防災について、関心を持ち、様々な防災活動に取り組んでいただいていることは、本当に心強く思っております。

さて、地域防災力の要である消防団員は、発生が危惧されている首都直下地震や、台風等による風水害など、多様な災害に対応しなければならない崇高な役割を担っている一方、消防団員の充足状況が厳しい状況にあることは、承知しております。

この状況を改善すべく、危機管理部をはじめ、教育委員会事務局等区内各部署に消防団員募集の協力指示をするとともに、区内に存する私立大学、専修学校に消防団員募集のご案内について周知いただくよう要請いたしました。

コロナ禍により、今までとは異なる広報活動が重要となりますが、区としても、引き続き消防署等関係機関、各事業所等と連携を強化し、消防団員の充足に尽力いたします。

防災への取組は、公助だけでも自助だけでも成り立たちません。いざという時に、すべての地域の方が、落ち着いて、かつ迅速に避難行動、防災活動にあたることのできる、安心・安全なまちを実現する

ため、区としても平常時から防災意識の向上と、万全な備えをしていきたいと考えておりますので、今後とも区の防災行政にご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年5月24日（火）
於：大谷口地域センター

大谷口地区 区民と区長との懇談会

『板橋消防団第5分団・第7分団の紹介と活動協力のお願い』

代表発表者 板橋消防団第7分団
分団長 三原宏之

1.分団紹介

第5分団	本部所在地	大谷口 1-4-11
	管轄地域	大谷口・弥生町
	主要装備	可搬ポンプ積載車1台、可搬ポンプ2台
	団員数	28名（定員数42名）
第7分団	本部所在地	向原 3-7-14
	管轄地域	向原・小茂根
	主要装備	可搬ポンプ積載車1台、可搬ポンプ2台
	団員数	26名（定員数43名）

※板橋消防団は、板橋消防署内に所在を持つ板橋消防団団本部（以下本団と呼ぶ）の下、全8個分団で構成されています。

2.主な活動

災害出動	火災、水災、台風、救助活動等
警戒出動	区民まつり、さくらまつり、歳末警戒等
地域防災活動	町会・自治会の防災訓練、学校・事業所等への応急救護講習

3.震災発生時の活動と町会・自治会の皆様へのお願い

東京都内で震度5強が発生した場合は、全団員が自主的に各分団本部へ参集。
それ以下の震度であっても、本団からの参集命令があった場合は参集します。



参集後の活動については、全て本団の指示を受けての活動となります。

本団と各分団間は、デジタル無線を使って連絡を取り合います。

本団と板橋消防署の間では情報の共有がなされます。

各分団の活動としては、消火活動、救助活動、避難路確保が主な活動内容となります。

震災発生直後は、救助を求める地域の方々が多く発生することが予想され、電話が不通となればなおさら、消防署・出張所・消防団分団本部へ直接助けを求める人が集まり、混乱することが予想されます。

このような中、被害を最小限にすべく活動を行う上で、まず重要な事は、正確な情報を得る事です。混乱した状況の中、正確な情報を得るためには、町会・自治会の皆様の情報提供のご協力が大変重要となります。

また、過去の震災時の事例から、消防団員だけでは人手不足となり、救助活動への人的協力を町会・自治会の皆様にお願ひすることになろうかと思われまふ。

(※ 消防団の避難所開設・運営のご協力は難しいことをご理解ください)

このようなことから、今後、より一層町会・自治会の皆様とは関係を深め、情報を密にして災害時の対応を検討し、訓練を行っていきたく思ひますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

4.運営の課題とお願ひ

先にあげたとおり、両分団共に定員数に対し、在籍団員数が70%を切る状況となっています。

また、会社員や学生も多く在籍し、平日の日中の活動可能団員数は非常に限られたものとなっています。

消防団員の減少により勧誘活動を活性化したいところですが、感染症が蔓延している環境下ではなかなか難しかったのが実情でした。

街中での勧誘活動、成人式での勧誘活動等を行い、各町会・自治会の皆様にもご協力をお願ひしていますが、なかなか団員数の増加に結びついていない状況の中、今までに行っていない勧誘方法を模索しているところです。

そこで、各区立小学校においての震災引き渡し訓練時に、少しお時間をいただひて消防団の紹介（放水活動の実演等の実施も検討）とチラシの配布を児童と保護者の前で行わせていただひけると助かります。

可能であるならば、板橋区から各校へ、消防団が消防団の告知を希望している旨を通知していただひればと思ひます。

また、各校の引き渡し訓練の実施予定日を管轄分団長、または消防団事務局へ連絡いただひると予定が組みやすく、事前に学校との打ち合わせも可能かと思われまふ。

5.最後に

消防団員として。また、住民の一人として、地域の安心と安全の為、日々訓練を行い、今まで以上に頼られる消防団を目指して努力してまいりますので、皆様のより一層のご理解とご協力をお願ひいたします。



相談事例

- 「マンション全体で電気の契約を変更している」「料金が安くなる」と言われ、現在契約している電力会社が新たなプランを開始したのだと思って承諾し、検針票を見せ、申込書に記入した。その後、別の電力会社からの勧誘であったことが初めて分かった。
- 高齢の両親宅に電気小売事業者の代理店の営業員が突然訪問してきて「当社に電気の契約先を変えれば今よりも電気料金が安くなる」と説明され、よく分からないまま契約してしまったようだ。事業者に解約の申し出を電話でしたが、ちゃんと解約できたのか心配だ。



消費者センターからアドバイス

- 電力会社等から電話を受けた際は、事業者名や内容をよく確認し、必要なければきっぱり断りましょう。
- 切り替えに必要な住所や供給地点特定番号等の情報は、現在契約している会社が発行する検針票に記載されています。検針票の記載情報を伝えたところ、勝手に別の会社への切り替え手続きをされていたというケースもあります。安易に検針票の記載情報は伝えないようにしましょう。
- 平成28年4月から、電気の小売が全面自由化され、電気小売業者の代理店が消費者宅に訪問や電話をして勧誘を行うようになりました。事業者から訪問や電話で勧誘を受け契約切替を承諾した場合、法定の契約書面を受け取った日から8日以内であれば、原則としてクーリング・オフができます。

消費者トラブル ひとりで悩まず すぐ相談 消費者ホットライン

局番なし

1888

えっ「お試し」のつもりだったのに、定期購入？



官公庁をかたる不審な電話がかかってきた

「いやや」消費者ホットライン

様々な消費者トラブルに巻き込まれたらまず相談！
「いやや(188)泣き寝入り。」と覚えてください。

消費者ホットラインは地方公共団体が設置している身近な消費生活相談窓口をご案内します。

「板橋区消費者センター公式ツイッター」のご案内



公式アカウント shohi_itabashi

板橋区消費者センターは、消費者トラブル情報など暮らしに役立つ情報をツイッターでタイムリーに発信しています。フォローよろしくお願いします。ご自身でツイッターの登録をしなくても、下記の「2次元コード」または「URL」からツイッターをご覧いただけます。

【URL】 https://twitter.com/shohi_itabashi

【2次元コード】



VI 区長結び挨拶

本日は、限られた時間ではございましたが、貴重なご意見等をいただきまして、誠にありがとうございました。本日の懇談会では、デジタル活用や地域防災など、テーマが多岐にわたり、地域の皆様の関心の高さを感じる機会となりました。皆様からいただいたご意見・ご要望につきましては、できることは速やかに実行に移し、検討・調整を要するものについても、十分に検討し、よりよい区政の実現に向けて取り組んでまいりますので、今後とも、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染者数は落ち着きを見せており、様々な制限が緩和され、少しずつ日常を取り戻しつつあります。板橋区でもワクチンの予防効果を高めるため、60歳以上の方、基礎疾患のある方を対象に4回目の準備を進めています。今後も刻々と変化する状況を的確に捉え、迅速・柔軟な対応を図り、区民の皆様に、安心・安全をお届けできるよう全力を尽くしてまいります。

結びにあたり、大谷口地区の益々のご発展と、本日お集まりいただきました皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

大谷口地区エリアマップ

上板橋第二中学校



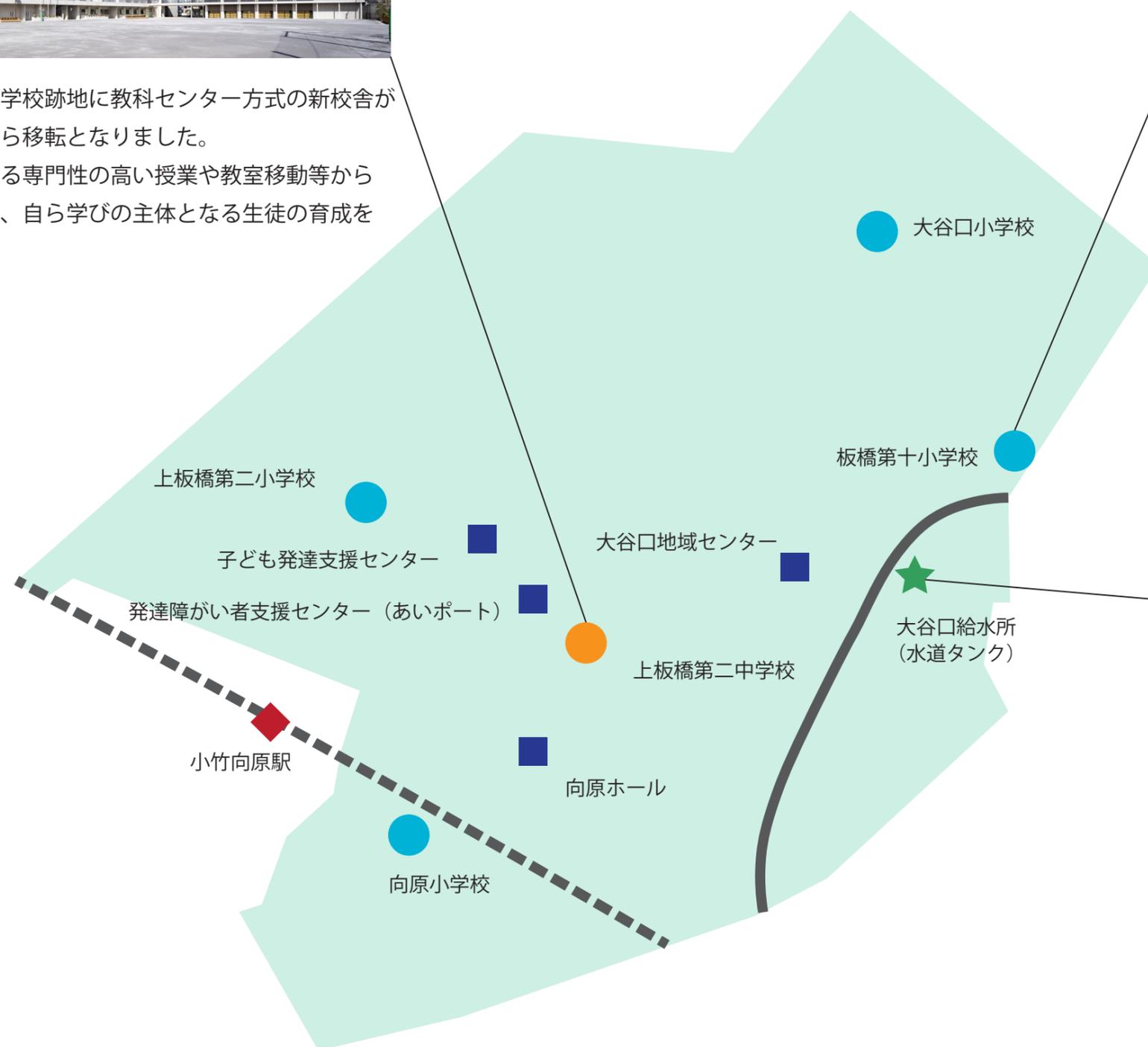
令和4年3月に向原中学校跡地に教科センター方式の新校舎が完成し、令和4年4月から移転となりました。

教科センター方式による専門性の高い授業や教室移動等から学習に向かう意識を高め、自ら学びの主体となる生徒の育成をめざしていきます。

板橋第十小学校



平成30年度から「地域と連携する」「主体的・協働的な学びを育てる」「変化に対応する工夫」「安心・安全をつくる」の4つをコンセプトとして改築工事を進め、令和2年9月に新校舎が完成しました。



大谷口給水所（水道タンク）



大谷口のシンボル水道タンクは、当初の給水塔としての役割を終えましたが、現在も災害時等の給水拠点となっています。